

多彩な北陸の地元電気事業者 — 各社ロゴデザイン

企業の理念や文化などを表現する企業ロゴは、企業の「顔」であり、消費者や顧客に企業を想起させる重要なビジュアル要素です。ロゴの歴史は古く、古代メソポタミアの円筒印章がその起源とも言われ、紋章などもその一つ。日本では花押や家紋などもその一種と考えられ、その歴史は中世にまで遡ります。

明治中期に新しい産業として登場した電気事業も、会社設立と同時に社章（ロゴマーク）をデザインしました。北陸には過去100年の間に多い時期で50余り、累計すると110の電気事業者が事業を展開していました。その中で現在も存在が確認できる社章（ロゴマーク）を紹介します。

（県別・開業順）

富山県

富山電灯（後の富山電気、日本海電気）



1899年（明治32）4月の大久保発電所（120kW）の運転開始をもって開業、電力を以て産業を興そうと設立された。1907年（明治40）1月富山電気に改称。1911年（明治44）1月に庵谷（第一）（1425kW）発電所の運転を開始し、その後、1918年（大正7）4月に早月（第一）（1024kW）・1919年（大正8）6月に庵谷第二（7110kW）・12月に早月第二（1400kW）の各発電所の運転を開始。1925年（大正14）10月能登電気を合併、1928年（昭和3）の小松電気の関係会社化を機に、同年12月に日本海電気に改称。

1941年（昭和16）8月、北陸の電気事業者12社を募って北陸合同電気の設立に伴い、日本海電気は解散。

高岡電灯



1903年（明治36）12月、菅野傳右衛門が高岡紡績の電気事業を引き受けて開業。1911年（明治44）以降富山電気から供給を受けて配電会社化。1924年（大正13）5月に神通川電気を合併し、成子・五平定・四津屋発電所（出力合計3300kW）を獲得、1928年（昭和3）能州電気を合併して能登に進出。1929年（昭和4）には石動電気と北陸共同電気を合併した。1941年（昭和16）8月、日本海電気の呼びかけで北陸合同電気に合併。

多彩な北陸の地元電気事業者 — 各社ロゴデザイン

富山県

松阪水力電気



1911年（明治44）7月、ガス発電をもって氷見支社を開業。松阪水力電気は才賀藤吉さいがとうきちが三重県松阪の資本家の出資を得て1903年（明治36）12月に設立。氷見支社は1918年（大正7）9月に地元の実業家で衆議院議員の広瀬鎮之ひろせちんしに買収され、氷見電気に。

愛本電気



1915年（大正4）8月開業。1921年（大正10）12月、中越水電に合併。

立山水力電気



1918年（大正7）5月開業。1919年（大正8）に日本水力電気（大阪電灯、京都電灯、北陸電化の関係者により設立）が買収。1920年（大正10）に日本水力電気を吸収合併し設立された大同電力に引き継がれた。白萩（2700kW）・中村（4000kW）・箕輪発電所（3500kW）を建設。1941年（昭和16）8月、日本海電気の呼びかけで北陸合同電気に合併。

氷見水電（氷見電気）



1918年（大正7）9月、地元の実業家で衆議院議員の広瀬鎮之ひろせちんしが、松阪水力電気氷見支社を買収して設立。1927年（昭和2）6月、富山電気に合併。

富山県営電気事業



1920年（大正9）6月、富山県電気局設置。1933年（昭和8）までに常願寺川で上滝（7400kW）・松ノ木（4600kW）・中地山（2300kW）・真川（3万kW）・小見（1万1900kW）・称名川第二（6350kW）発電所を建設し、発電した電気をすべて発電所渡して日本電力、富山電気（日本海電気）に卸売りした。1942年（昭和17）6月日本発送電の設立に伴って出資し消滅。

黒部川電力



1923年（大正12）10月、川北電気企業社によって大阪市に設立。1926年（大正15）6月、黒部川第一（4160kW）・第二（3440kW）発電所の運転を開始し、富山電気と青海の電気化学工業に供給した。黒部川第三発電所を建設中の1929年（昭和4）6月、川北電気企業社の経営不振から日本海電気が買収し、子会社化。1933年（昭和8）、日本海電気（現在の北陸電力）と電気化学工業の折半会社となり、現在に至る。

多彩な北陸の地元電気事業者 — 各社ロゴデザイン

石川県

金沢電気瓦斯



1900年（明治33）6月、金沢電気開業、1908年（明治41）ガス事業を兼営し金沢電気瓦斯に改称。上辰巳（辰巳、240kW）・福岡第一（1300kW）・福岡第二（709kW）・吉野（4500kW）・市原（709kW）発電所を建設。1921年（大正10）10月に金沢市が買収。

小松電気



1910年（明治43）4月、ガス発電で開業。1911年（明治44）に金沢電気瓦斯から供給を受けると、ガス発電機をもって1912年（明治45）10月に泊町（富山県）、1913年（大正2）7月に津幡町、1914年（大正3）7月に木郎村（能登）に支社を開設。1921年（大正10）12月には大日川に三ツ瀬発電所を運転開始。1928年（昭和3）に富山電気の関係会社となる。1941年（昭和16）8月に日本海電気の呼びかけで北陸合同電気に合併。

大聖寺川水電



1911年（明治44）12月、大聖寺川で山中発電所（264kW）の運転開始をもって開業。1914年（大正3）、湯水期の補助に火力発電所（150kW）を建設。1920年（大正9）12月に我谷^{わがたに}発電所（264kW）を運転開始。1941年（昭和16）8月に日本海電気の呼びかけで北陸合同電気に合併。

輪島電気



1912年（明治45）3月、ガス発電で開業。1920年（大正9）1月、七尾電気が設立した能登電気に合併。

能登電気



1920年（大正9）1月、七尾電気（^{しちご}才賀藤吉の資本を得て1910年（明治43）12月に開業、1916年（大正5）に地元の実業家樋爪^{ひづめじょうたろう}議太郎が買収）が輪島電気、志雄電気、高浜電気、大正電機を合併して設立。1926年（大正15）12月、富山電気に合併。

金沢市営電気事業



1921年（大正10）10月、金沢市が金沢電気瓦斯を買収して開業。順調に業績を伸ばし、1930年（昭和5）10月に吉野第二発電所（1000kW）の運転を開始。1942年（昭和17）電力国家管理第一次統合で北陸配電へ設備を譲渡し消滅。

多彩な北陸の地元電気事業者 — 各社ロゴデザイン

福井県

京都電灯



1899年（明治32）、福井支社開業。福井県初の宿布^{しくぬの}発電所（80kW）をはじめ、中尾（600kW）・小和清水^{こわしやうず}（900kW）発電所を建設。中尾発電所の土木請負は飛鳥組（現在の飛鳥建設株式会社）。余剰電力を背景に越前電気鉄道も運営。1942年（昭和17）電力国家管理第一次統合で北陸配電に設備を譲渡し消滅。

敦賀電灯



1908年（明治41）3月、兵庫県資本によって火力発電をもって開業、1910年（明治43）12月黒河（粟野）発電所（250kW）の運転を開始。1927年（昭和2）京都電灯に合併。

越前電気



1909年（明治42）8月、地元資本により、池田村足羽川上流で持越^{もちこし}発電所（130kW）の運転開始をもって開業。1925年（大正14）9月に三国電灯、武周電力を、1931年（昭和6）12月に日野川水力電気を合併。1941年（昭和16）8月、日本海電気の呼びかけで北陸合同電気に合併。

日野川水力電気



1920年（大正9）5月、今庄村で越前電気から電力の供給を受けて開業。1931年（昭和6）12月、越前電気に合併。

多彩な北陸の地元電気事業者 — 各社ロゴデザイン

北 陸

日本電力



1919年（大正8）12月設立，1924年（大正13）11月に亀谷発電所を有する越中電力を合併し北陸（富山県）に進出。庄川水力電気，東洋アルミニウム，飛越電気，立山電力を子会社化し，黒部川・神通川・庄川で電源開発するとともに，富山県で電力供給を展開。1941年（昭和16）10月日本発送電の設立に伴って発送電設備を出資，翌1942年（昭和17）電力国家管理第一次統合で北陸配電に配電設備を出資。社名を日電興業に改め，電気事業以外の子会社を統括する持株会社となったが，戦後の財閥解体により1947年（昭和22）消滅。

大同電力



1921年（大正10）10月，大阪送電が木曾電気興業，日本水力電気を吸収合併して設立。日本水力電気から引き継いだ西勝原発電所（1919年（大正8）に北陸電化により運転開始）を有して，北陸（福井県）に進出。子会社の立山水力電気・昭和電力を通じて早月川・神通川を中心に電源開発。1939年（昭和14）4月，日本発送電の設立に伴って発送電設備を出資し消滅。

日本発送電



「2章 北陸の独自性を守った経営者」参照

北陸配電



「2章 北陸の独自性を守った経営者」参照